

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



(東北アジアの外交文化を告げ口、チンピラ、押し付け、側隠の情)

韓国、北朝鮮、中国は長い歴史文化を持つた国であるが、最近の外交姿勢を見ると韓国の告げ口外交、北朝鮮のチンピラいすわり外交、中国の押し付け強盗外交の姿勢が目につく。韓国は日本を標的にして執拗にこの外交を続けている。

日本は13世紀に中国大陸の元帝国の来襲を二度も受けて、これに耐えた。20世紀には日本が欧米列強のアジア進出への動きの中で中国大陸に進出をして、これに失敗した。

韓国と北朝鮮はこれらの世界情勢の中で生き延びてきている。世界の列強は第2次世界大戦の終結を通して、

この東アジアへの進出の政治的幕引きを行った。敗戦国日本はこの国際連合の政治的決着を受け入れたが、韓国と北朝鮮は告げ口外交とチンピラいすわり外交で、自分の取り分を増やそうともがいている。

韓国は第2次大戦の政治決着の後に自分勝手に国境線(李承晩ライン)を引いて日本を竹島を韓国領と主張して国際法上の不法占拠を行っている。韓国は慰安婦問題を歴史的事実を歪曲して報道して、告げ口外交戦術を続けており、この戦術にやすやすとのせられた日本の政治家やマスコミもあり、彼らの言動が現在もその問題に暗い影を投げかけている。

日本には1万5000

0年以上も前の縄文文化から引き継いでいる、ものと情を分かち合う心(側隠の情)を尊ぶ伝統があるが、これに安住し過ぎると「平和ボケ」のような問題が生じてくる。日本と中国との文化交流の長い歴史の中で、日本は多大な影響を受け継いで来た。

インドの仏教、それらが中国の道教や儒教と組み合わされて日本に伝えられ、日本古来の文化と交って現代文化に引き継がれている。現代の一元独裁の中国の共産党文化は長い中国の歴史から見ると異例なのである。これが押し付け強盗外交として姿を現しているのである。

日本はこれら「告げ口、チンピラ、押し付け文化外交」を懐深く包みかえして世界の他の国々と価値を共有できるものに変えることを目指すべきである。気仙の自然と歴史の魂と心にこれを語りかけてみようではありませんか。中国古典の詩經にある孔子の「思无邪」を思い浮かべて

いる。

(北限の生命と文化の移植)

北限のツバキ、北限の茶、日本列島における気仙地方はツバキや茶の北限であり、それが独特の気仙地方文化につながっているのかもしれない。

2月4日の第7面に「宝」はすぐ足元に？高田の土で陶芸に挑戦 神奈川の竹内さんが提案 季仙窯の佐藤さん(矢作町)制作」が掲載されている。

北限のツバキと茶が育っている気仙の土からどのような陶芸を創造できるか、この挑戦は心が躍る思いがする。それは北限の文化として何を伝えたいのかを創出することであるからだ。

東京西多摩地方の青梅市で、千利休の伝統的茶道とは異なる自然と人間とのかかわりの認識を主眼とする「お茶」を始めている。空腹と喫茶の関係の妙味を深く味わっている。

西多摩のおきる野市は明治憲法発布の10年も前に地元の有志が創案した民衆憲法草案が知られている。草の根の創意工夫の自主性を尊ぶ伝統がある。

青梅市はこの草の根の自主の伝統を2020年の東京オリンピック・パラリンピックと並行してもうひとつのオリンピック・パラリンピックとして世界の草の根の自主独立の文化を共有する活動を企画している。(北限の生命と文化)活動がこの青梅市の草の根文化活動とつながれば(北限の生命と文化の移植)として、実りゆたかなものになるものだと期待している。

(東海新報記事から)

2月4日の第7面に「健康維持を考える地域復興シンポジウム大船渡」が掲載されている。心のケアが話された様子である。同級生の山浦氏の元気な写真を見て、気仙の昔を懐かしく思い出している。東海新報のおかげであると感謝している。